

安全と環境を考えるニシオの広報誌

安全くん

2004

Vol-4

70



表紙写真：宮島
(広島県)

とれ行け!! 安全くん

特集「あなたのヒヤリハット私のヒヤリハット」

●解説コーナー

「安全旗(緑十字)について調べ、考えてみました…!」

「この夏、熱中症対策は万全ですか?」

●世の中 見たトコ勝負 VOL.10

「猛威ふるう『ニナリマス症候群』」

●NISHIO TOPICS

NISHIOの「LEDガードマン」が、テレビで紹介されたって本当!?

●お知らせ・情報コーナー

「重機接触事故対策用 安全補助検知器『安全くんⅡ』好評稼動中!その秘密は?」

インターネットホームページ
「安全くんネット」もご覧ください。

<http://www.anzenkun.nishio-rent.co.jp/>

(この広報誌は、再生紙を使用しています。)

それ行け!! 安全くん

画 中村よしのぶ

特集「あなたのヒヤリハット 私のヒヤリハット」



No.18より抜粋

今回は、69号のアンケートハガキにて頂戴しました読者の皆様の「ヒヤリハット体験」の特集です。

69号にてマンガストーリーの中で問題となる「ヒヤリハット」のシーンを入れたところ、読者の皆様も過去の体験を思い出されたのか、その内容を記したアンケートハガキを多数頂戴しました。



No.38より抜粋

一方、「実際に現場で“ヒヤリハット”の提出を求めても、なかなか出てこない」との声も多くありました。

そこで、読者の方からのヒヤリハットの実例と「安全くん」の過去の迷場面をあわせて掲載しますので、現場での安全活動の資料としてご活用ください。

●掲載させていただいた皆様には、安全くん特製の「ご安全に」グッズをお届けします。ありがとうございました。

(※都道府県と名字のみ表示)

解説 コーナー

安全旗(緑十字)について調べ、考えてみました…!

インターネットで検索してみると、『昭和3年(1928)全国安全週間の始まりと当時に使用された』そうです。また、緑十字になったのは、「当時、全米安全会議が青地に白十字を使っており(現在は、緑十字に変更)、また日本でも赤十字や結核予防会の白十字があったから緑になった」と紹介されていました。

■色彩としての緑のイメージは?

心理的な面から緑色を見た場合、人に調和やバランスを感じさせる特性を持っており、誰の目にも美しく見え、気分をリラックスさせてくれる色で、緑の服やアクセサリを身に付けていると、本人の気持ちが安らぐだけでなく、それを見ている相手にも、バランスをとろうとする心理が働き、お互いの関係が穏やかになる効果もあるとか。

■安全旗の十字の意味は、「仁愛」「福德」!!

一方、十字のデザインは、外国では「仁愛」を意味し、東洋では「福德」の集まるところを意味するようです。「仁愛」とは、「情け深い心で人を思いやること。いつくしむこと。」「福德」とは、「幸福と利徳。善根によって得る利得。」さらに、「善根」を調べると、「よい報いを招くもとなる行為。」うーん、なかなか深い意味があるのですね。

■安全旗のもとで…

いつも見ている安全旗ですが、そのデザインと色あいは、「自分だけでなく周りの人々とのよい関係づくり、そしてその上になった幸せ」を意味しているように思います。つまり、「現場の安全ルールは、自分のためだけでなく共に働く仲間のためにも守るべきもので、自分もまた、誰かがルールを守ってくれているからこそ安全に仕事ができるのだ。」ということでしょうか。そんな気持ちで安全旗を見てください。安全旗が本当に尊い旗に見えてきます。



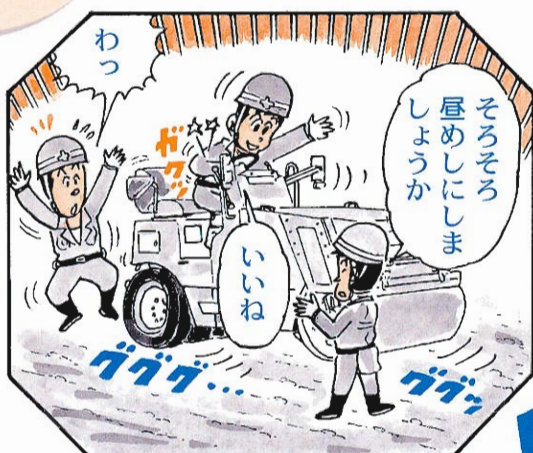
info
motion

表紙の写真

世界文化遺産 日本建造物シリーズ 第4回「安芸の宮島/厳島神社」 12世紀、平安時代末期に平清盛によって寝殿造りの壮麗な社殿群が形成されました。(1996年12月 ユネスコ世界文化遺産に登録)



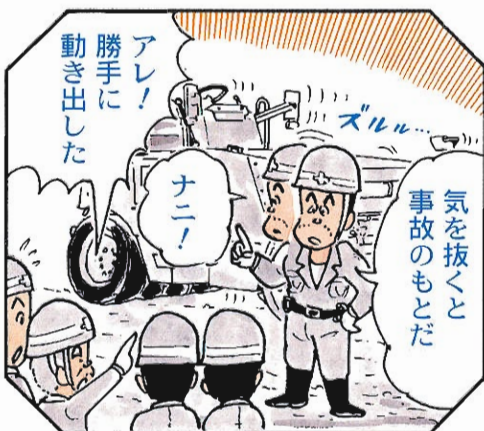
舗装機械に関するヒヤリハット集



レバーにひじが当たってバックする



重機、後方での異常接近



重機の逃走、ブレーキ・歯止め忘れ



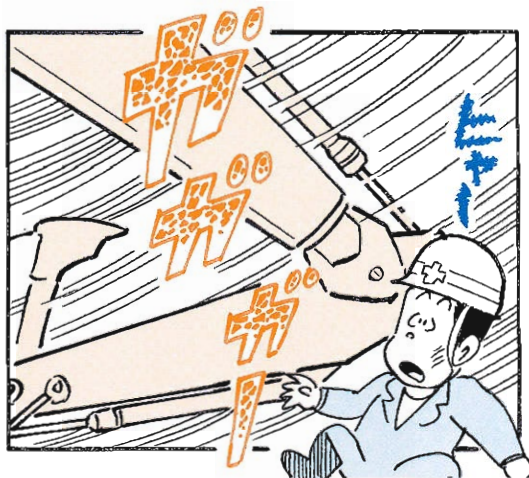
No.29・47より抜粋

私は言いたい放題

『舗装機械に関するヒヤリハット集』

- ローラーマンが後方を確認しないでバックしてきた。 様
- ロードローラの後進時に作業員がローラの後方を横切った。 様
- 現場でグレーダを運転中に左側で作業をしていた作業員がグレーダの影にかくれ、また作業員も自分の仕事に夢中になっていて気がつかなくてグレーダのタイヤで危うく轢いてしまいそうになりました。 様
- 4tローラからおりようとした時、服がレバーに引っかかって転倒しそうになった。 様
- 坂道で重機が動き出した事があった。 様
- 雨天後の始業時に、タイヤローラのステップで足をすべらして転落しそうになった。 様
- 坂道での舗装工事中、ミニアスファルトフィニッシャのブレーキがはずれ暴走した。あやうく大通路に出るところだったが運転手がハンドルを切ったため石垣にぶっかっただけでした。 様
- 歯止めを忘れたタイヤローラがOFFランプを下り始め（サイドブレーキが甘かった）自社のマカダムローラ、給水車に衝突して止まった。万が一第三者の車両だったら人身災害になっていたはず。重機には歯止めを常備してください。 様
- 型枠をコンバインドローラに乗せて走らせた所、前進後進レバーに型枠が引っかかって一時操作不能になった。 様

バックホウに関するヒヤリハット集①



※懐かしい
創刊号の1シーンです。



安全くんの初めての現場。
表情も幼さが残っています。
ガンさんもちょっぴり若い？

No.1より抜粋

私は言いたい放題

『バックホウに関するヒヤリハット集』①

● レベルで測量中、レベルと自分の頭上をバックホウのカウンターウエイトが旋回した。

様

● バックホウの旋回時に、作業員に接触しそうに。寸止めの状態で、全く“ケガなし”だったのでよかったのですが、少しの間、ドキドキして「心ここにあらず」だったので、運転を一時かわってもらいました。

様

● 現場走行中、重機がいきなり旋回を行った為接触しそうになった。

様

● バックホウのかげで休んでいたところ 急に動き出した。

様

● バックホウで吊ったまま旋回しようして倒れかけたこと。

様

● 重機のバケットが車庫の屋根に当たりそうになった。

様

● バックホウのバケットでヘルメットが10mほど飛んだ。

様

● 入社した新入りの職人が、他作業のバックホウ／アイオン付でコンクリートはつり作業中のブーム下を通行した。

様

● バックホウのオペが頭上確認せずアームを上下に動かした。

様

● ユンボの後方で作業員が接触した。

様

● 重機作業中に立入禁止措置を行っていたのにも係わらず、一般通行者と重機が接触事故を起こしそうになった。

様

● 掘削時、水道局との協議では予定していた場所と違うところに水道管が埋設されており、バケットでひっ掛けそうになった。

様



バックホウに関するヒヤリハット集②

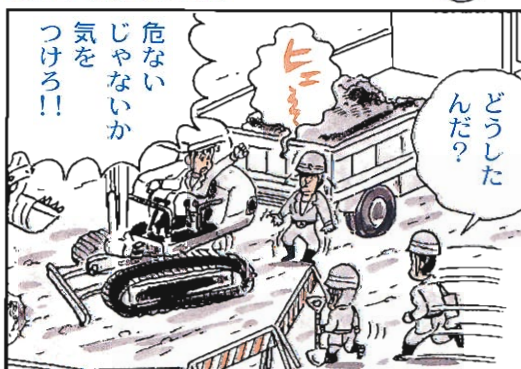
用途外使用



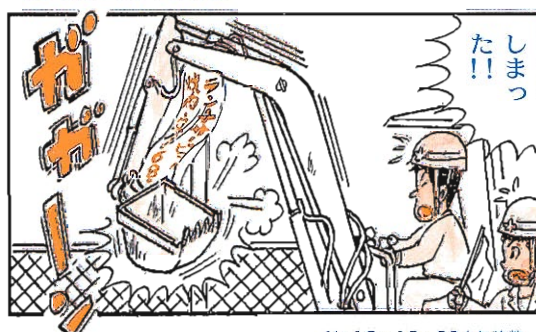
オペの操作ミス



後方、旋回内立入



周辺構造物の損壊



No.16・18・32より抜粋

私は言いたい放題

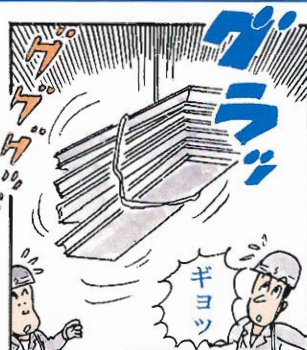
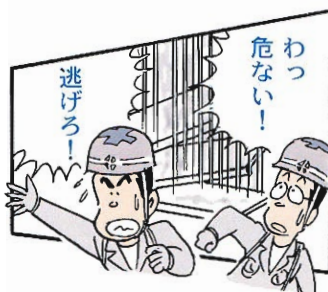
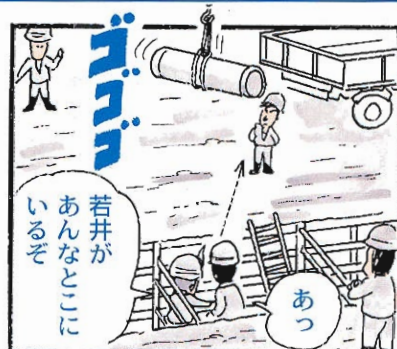
『バックホウに関するヒヤリハット集』②

- バックホウにて掘削時大きな石がでてきたのでバケットにかかえて地面においておいた。その時油圧が抜けて石が穴の中に落ちた。穴の中には人がいたが運がよく大丈夫だった。
様
- 現場でミニバックホウ運転中に側溝に片足を落としし“ヒヤリ”そこで止まったのでよかったです。
様
- ため池の水を流すため、池のヘドロを取り水道をつくろうとした時に、機械ごと法面から滑り落ちたことがあってその時はヒヤリとした。
様
- 現場で狭い道路を工事中にユンボが谷に落ちそうになった。
様
- 解体ででた木をダンプに積み込み中、ユンボで見えない所においてダンプの箱に入らず頭の上に落ちてきた。
様
- バックホウを操作中、足元に落ちたライターを取ろうとして、作業服が操作レバーに触れ、不意に動いた。幸い、周囲に人・物がなく、事なきを得た。
様
- ユンボ作業の後、降りようとして服がレバーに引っかかり誤作動した。
様
- 肩が凝ったので腕を回したら機械が動き、“ハットヒヤリ”。安全レバーをしていなかった。
様
- 空き缶が走行レバーにはさまって動かなかった。
様
- バックホウの運転席から降りる時、上着がレバーに引っかかり重機が旋回してしまいヒヤリとした。
様

クレーンに関するヒヤリハット集



過荷重
による
横転の
危険



玉掛不備
による
危険

No.11・12・21
より抜粋

私は言いたい放題

『クレーンに関するヒヤリハット集』

●周囲の確認がおろそかで、上部確認をせず吊荷（レッカー）の下に入ってしまった。

様

●クレーン作業時、吊荷の下に入ってしまった。

様

●ユニットの前にいたら、フックが頭上にふつてきた。ヘルメットに救われた。

様

●現場にて車を運転中に、タワークレーンが動き出し吊っていた鉄骨にぶつかりそうになりました。

様

●クレーン足元の地盤が陥没した。

様

●ユニット操作中、アウトリガが少し浮いた。

様

●現場内で作業時、足元に気を取られていて気が付いたら吊荷の下に入ってしまった。

様

●玉掛ワイヤーが切れた。

様

●敷鉄板を吊って移動中、振れていたのをつい手を出して止めた。

様

●材料吊り上げ中、ブームを伸ばした時のたわみで荷が下がった。

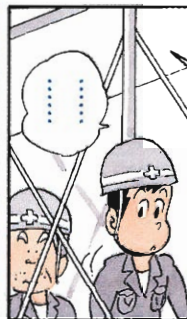
様

●クレーン付油圧ショベルで横断暗渠を吊って旋回している時に横転しそうになった。

様



物の落下・足元、開口部でのヒヤリハット集



No.8・38より抜粋

私は言いたい放題

『物の落下・足元、開口部でのヒヤリハット集』

- 開口部付近で下を向いたところ胸のポケットからボールペンを落としてしまった。開口部から落としてしまい、作業中であればあたる可能性もあった。落下防止ネットを取付け標示看板も取付けた。 ■ 様
- 外壁塗装工事中に塗装職人がペンキローラを落とし目前に落下、ヘルメットをかぶっていたよかった。 ■ 様
- 上からパールが落ちてきた。 ■ 様
- 高所作業時の工具類の落下 ■ 様
- 現場足場上、高所作業において資材の落下や工具の落下でヒヤリ、下に作業員がいなかったため、よかった。 ■ 様
- 足元の視界を妨げる荷物を両手で持って歩いていて床の突起物につまずき前に転倒。よく有り得る事故。危険度も高い。 ■ 様
- 床開口部の養生がズレていて見えなかった。 ■ 様
- 足場作業で鷹が組立作業を終了して現場を離れたあと荷物を吊り上げるため一箇所開口部が出来てしまった。うっかりそのままにして開口部の養生を忘れていたため 次の鷹がそれに気付かず転落しそうになった。 ■ 様
- 現場内の安全通路の鋼製階段が雨で濡れており、滑って踏み外しそうになった。 ■ 様
- 床版型枠（スラブ）上で、雨が降った後、すべて転倒しそうになった。 ■ 様

今回採り上げました事例以外にもたくさんヒヤリハットを頂戴しています。
・小型電動工具・電気設備・道路工事でのもらい事故・高所作業車・簡易足場・脚立・転倒事故など、これらについてもホームページ「安全くんネット」にて公開（都道府県名とイニシャルのみを表示）する予定です。



SAFETY CHECK セーフティチェック

バッテリー溶接機の安全

溶接作業で使用するバッテリー溶接機は、エンジン式溶接機に比べ排気ガスが出ず静かという利点で広く現場で使われます。今回は取り扱いと安全上の注意をまとめました。

□溶接作業中の安全

溶接作業中に、溶接の火の粉が本体にかからないように本体を作業周辺から離して作業を行ってください。本体にカバーをかけて運転すると換気ができず、本体内温度が上昇し加熱すると故障の原因となるので避けましょう。また、運転中に出力端子に触れないでください。感電する恐れがあるので、結線等で端子部に触れるときは出力スイッチをoffにすること。

□充電と日常点検

満充電、電源無しで使用可能な溶接棒の本数は2.0mm棒で約20本余り、3.2mm棒では十数本程度。溶接に伴う放電により一定の限度を超えるとパワーが下がり再充電しないと溶接できません。使用可能な溶接棒の本数は、電源併用の有無や溶接棒径、実際の使用率により変わるのでも、予め該当機の使用可能本数を把握し作業計画を立てましょう。

使用前には、①外観の状態②端子の弛み③溶接ケーブル被覆の損傷劣化④ホルダーの損傷、スパッタの著しい付着はないか、⑤バッテリー端子部が錆びたり、緩んでいないか確認をお忘れなく！



SAFETY CHECK セーフティチェック

感電事故防止 ～分電盤の安全～

分電盤及び、電機器具を使用する場合、特に夏場は漏電による感電事故に注意が必要です。主な原因と災害防止のポイントを考えてみましょう。

□感電事故の原因と対策

電線の傷や、端子ネジの締付不良による発熱が原因での短絡（ショート）や、電線の接触等で感電する場合があります。そこで防止策としてアース（接地）や漏電遮断器を設けます。アースは器具と大地（地面）間の電気の通路で、器具の絶縁が悪い場合でもアースをする事により感電事故が防げるので、作業前の器具、アース点検は、必ず行う。また、分電盤等に取付られている漏電遮断器は、アースによる保護が断線等により不完全な場合でも、わずかな漏電電流を感知し電源を遮断する事により感電事故や、火災事故を未然に防止するので、これも作業前に作動点検を行う事が重要です。

□安全点検のポイント

使用前の点検は、

- 1) 分電盤: ①分電盤のアース線は取り付けられているか、②周囲は整理されているか、③電気取扱者氏名表示はしてあるか
- 2) 漏電遮断機器 (ELB): ①感電防止用漏電遮断器の作動状態（テストボタンで確認）
- 3) 開閉器: ①スイッチの不良はないか、②スイッチのカバーを外して使用していないか、③端子接続部の芯線は裸になっていないか、④タコ足配線をしていないか、⑤行き先表示をしているか（動力と電灯の区分）

※屋外等で分電盤を取り付ける場合、取付け面の水平を確認し堅牢に取り付けてください。



解説コーナー

この夏、熱中症対策は万全ですか？

真夏の屋外作業には、熱中症の危険が伴います。特に、昼間のカンカン照りのもとでは、ヘルメットの上は何と50～60度近くにも。運動神経をつかさどる大切な後頭部に悪影響を与え、熱中症を引き起こします。意識をシャキッとさせ、熱中症から体を守るには、後頭部を冷やすことが効果的です。

そこで、最近、話題になっている夏場の熱中症対策グッズをご紹介します。これらのグッズはヘルメットの中に着用し、後頭部を暑さから守るもの。高吸水素材に水を含ませて数時間水分を保ち、水分が蒸発するときに、気化熱で後頭部を涼しくしてくれる仕組みです。NISHIOを通じて、特別価格でご購入できます。どうぞご利用ください。

●熱中症対策グッズ「そ〜かい」くん＆「クールビット」

①「そ〜かい」くん

ヘルメットの後ろに取り付ける冷却シートタイプ。使用前に約6分間水に浸すだけで、冷却効果が長持ちし、繰り返し使用が可能。

②「クールビット」

ヘッドカバーと一体型の「クールビット」。ヘッドギヤタイプの「レーシング」とキャップタイプの「アイス帽」が登場。使用前に約1分間水に浸し絞るだけで真夏の炎天下でも、30～35度前後で約3時間、後頭部を日射の被害から守ってくれる。



「そ〜かい」くん

*定価
1,029円
(税込)



「クールビット」レーシング

*定価
1,260円
(税込)



「クールビット」アイス帽

*定価
1,890円
(税込)